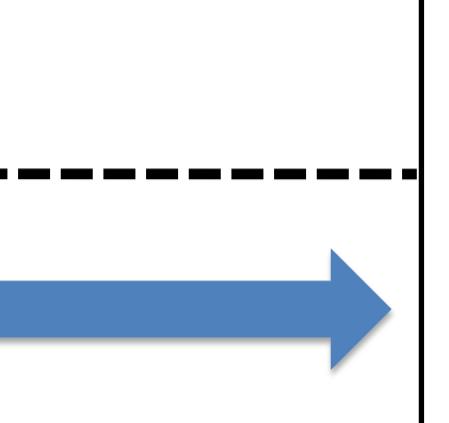
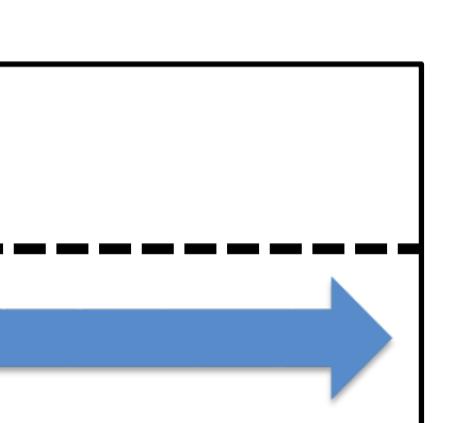
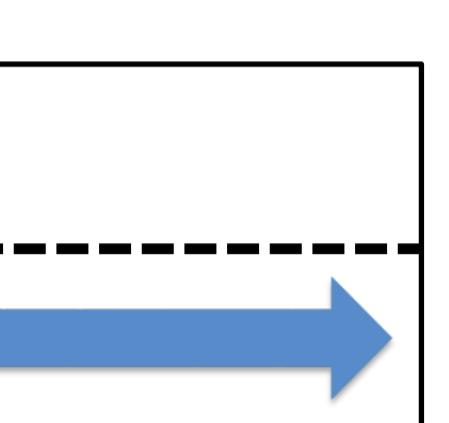
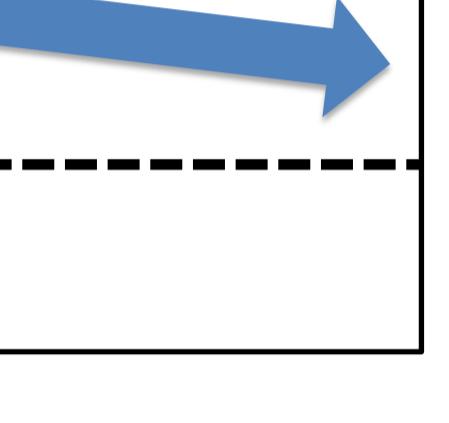
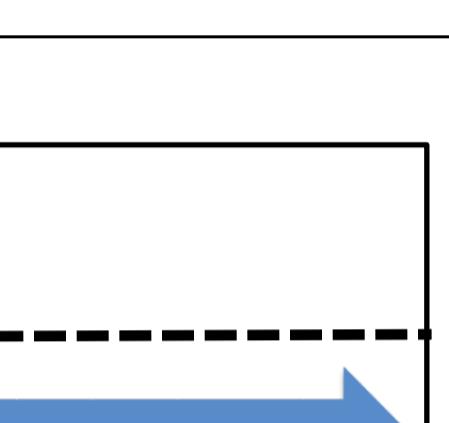
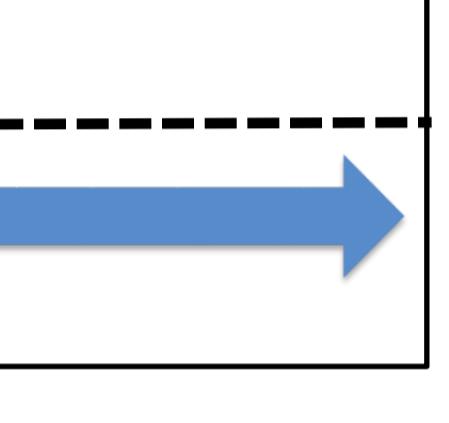
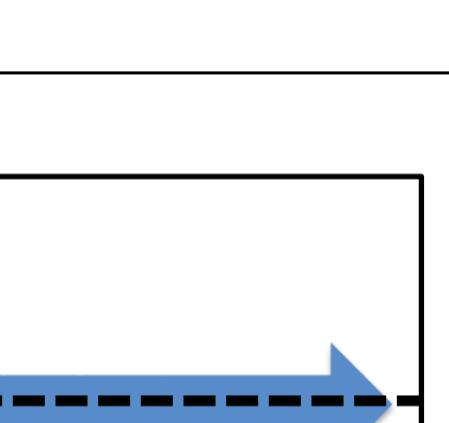
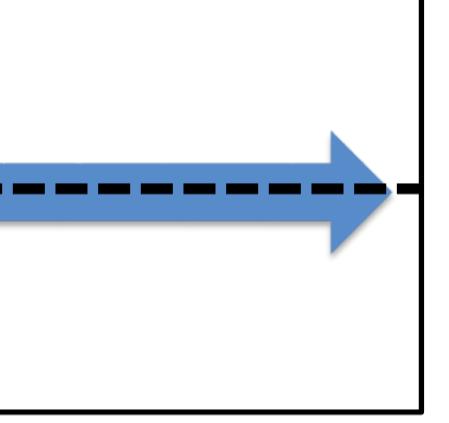
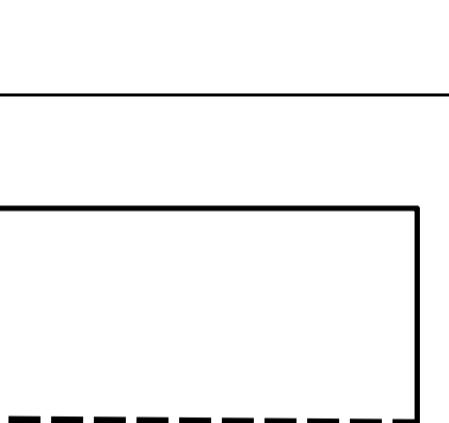
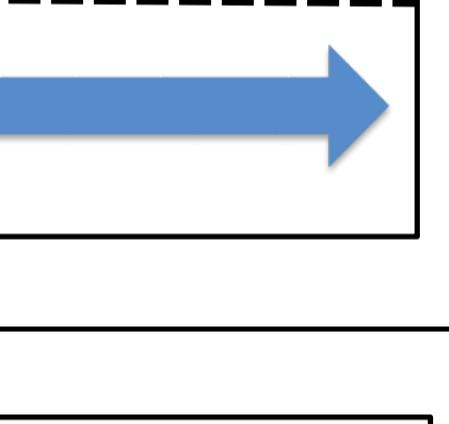
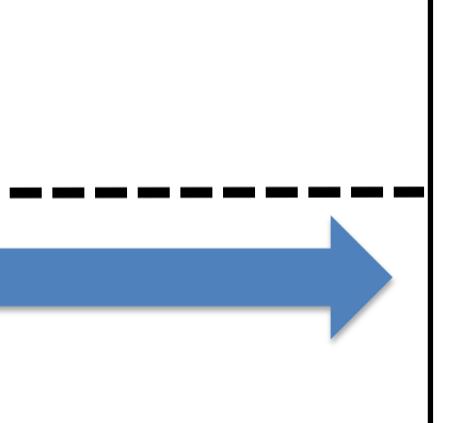
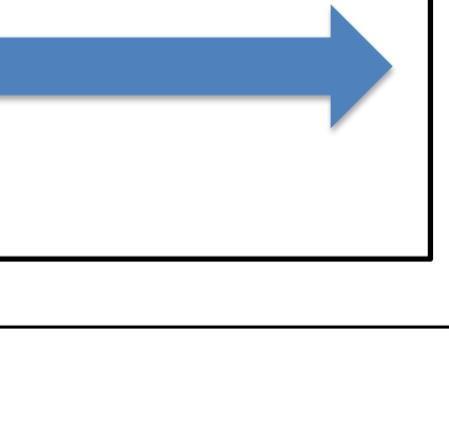
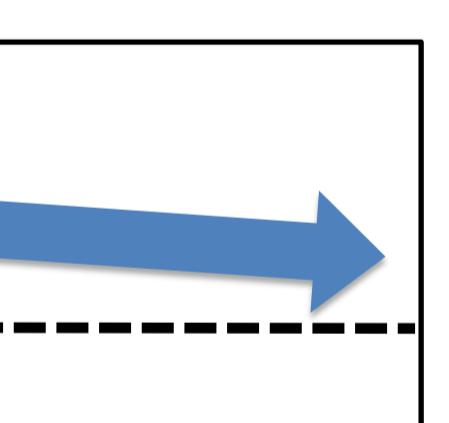
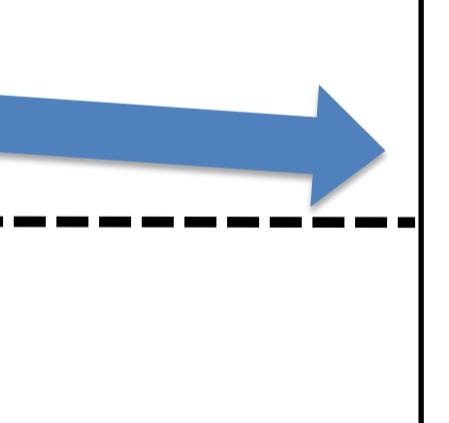
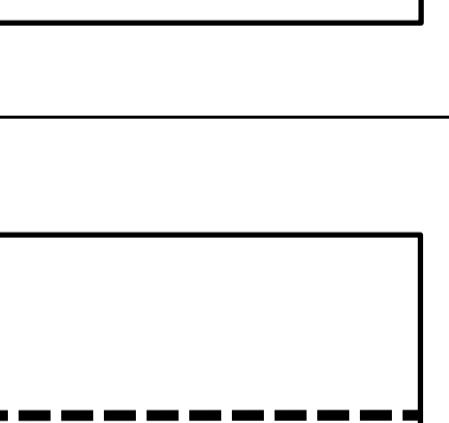
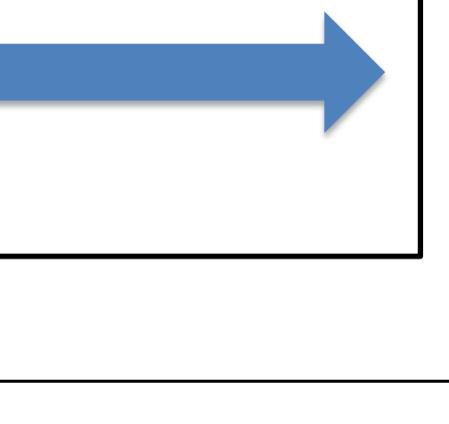
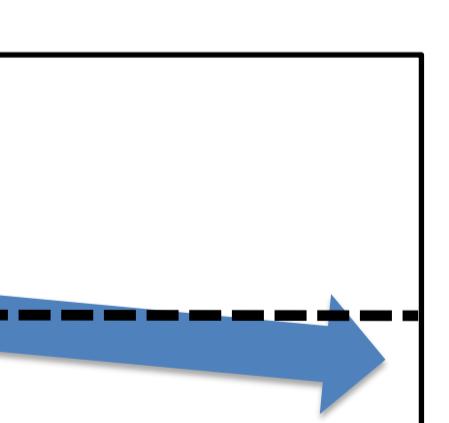
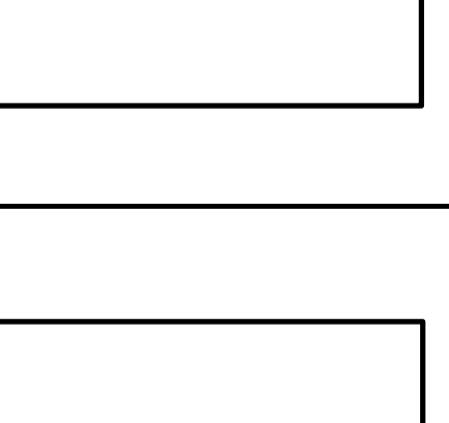
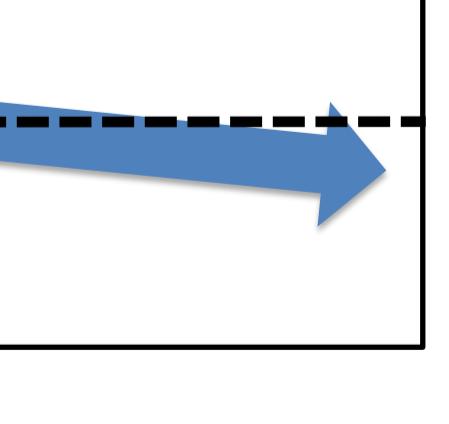
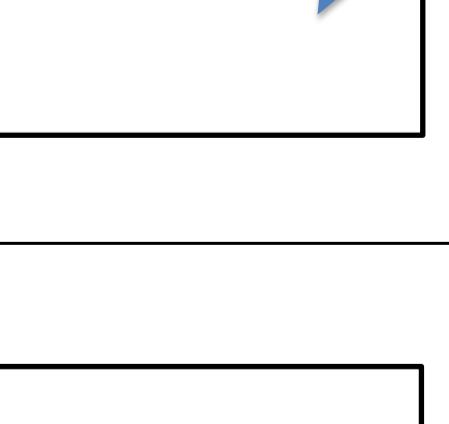
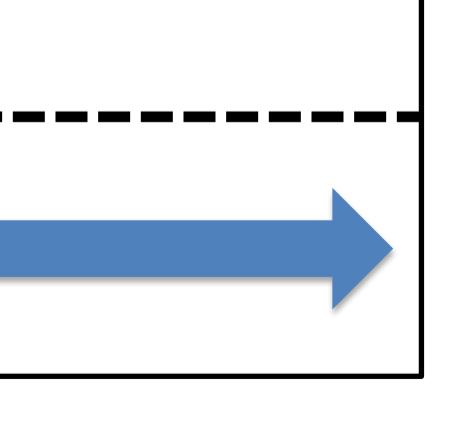
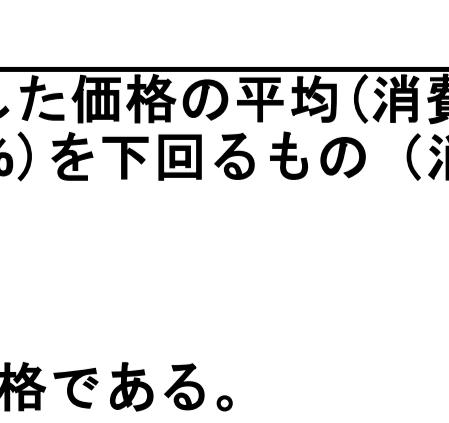


野菜の需給・価格動向レポート(平成29年10月16日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

※レポートの読み方については、注意書きを参照してください

種類	9月の価格情報		10月の価格情報		10月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	「図の見方」 平均価格 現時点の価格水準 平均価格(点線)は、レポート期間中に変動する場合があります。			
	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関東・近畿 ブロック 旬別平均販売価額	(参考) 保証基準額 の算定の基 となる平均 価格	指定野菜の関 東・近畿 ブロック 旬別平均 販売価額						
葉茎菜類	キャベツ 	74.19 (128%)	95 (109%)	81 (109%)	74.19 (80%)	59 • 12,299t (107%)	群馬(60), 茨城(13)			
		88.91 (110%)	98 (96%)	85 (96%)	88.91 (70%)	62 • 4,818t (111%)	群馬(55), 長野(21)			
	たまねぎ 	93.34 (74%)	69 (71%)	67 (71%)	93.34 (71%)	66 • 5,819t (82%)	北海道(95)			
		93.34 (74%)	69 (75%)	70 (75%)	93.34 (73%)	68 • 2,696t (93%)	北海道(87), 兵庫(12)			
	ねぎ (開莖は白ねぎ、 近畿は青ねぎ) 	287.00 (102%)	294 (104%)	298 (104%)	136.25 (205%)	280 • 2,275t (91%)	青森(24), 秋田(18), 北海道(17)			
		487.13 (101%)	491 (95%)	461 (95%)	467.01 (95%)	444 • 187t (110%)	香川(18), 徳島(18), 高知(12), 奈良(12), 三重(12), 大阪(9)			
	はくさい 	81.96 (134%)	110 (97%)	80 (97%)	81.96 56.81 (94%)	53 • 7,926t (106%)	長野(70), 茨城(15)			
		88.72 (125%)	111 (96%)	85 (96%)	88.72 69.44 (74%)	51 • 4,798t (112%)	長野(95)			
	ほうれんそう 	583.95 (109%)	639 (95%)	557 (95%)	385.11 (120%)	462 • 804t (131%)	群馬(33), 茨城(22), 栃木(16)			
		670.86 (116%)	778 (103%)	693 (103%)	461.74 (131%)	606 • 268t (91%)	岐阜(66), 北海道(10)			
	レタス (結球) 	158.27 (90%)	142 (63%)	99 (63%)	158.27 (48%)	75 • 5,307t (129%)	茨城(60), 長野(26)			
		152.57 (96%)	146 (69%)	105 (69%)	152.57 (55%)	84 • 1,658t (146%)	茨城(32), 長野(26), 兵庫(23), 長崎(12)			
果菜類	きゅうり 	221.22 (120%)	265 (98%)	218 (98%)	289.03 (75%)	218 • 4,226t (105%)	埼玉(29), 群馬(26), 福島(11), 茨城(11)			
		232.80 (123%)	287 (102%)	238 (102%)	298.96 (80%)	238 • 937t (96%)	群馬(21), 北海道(17), 宮崎(17), 大阪(11), 福島(11)			
	トマト (大玉) 	252.46 (151%)	381 (122%)	309 (122%)	347.41 (100%)	346 • 3,606t (93%)	千葉(16), 福島(15), 熊本(11), 茨城(11), 青森(10)			
		298.46 (145%)	432 (120%)	359 (120%)	371.67 (99%)	369 • 1,133t (88%)	岐阜(23), 熊本(22), 北海道(19), 岡山(11)			
	なす 	230.51 (156%)	359 (107%)	246 (107%)	301.00 (79%)	237 • 1,944t (111%)	高知(31), 栃木(21), 群馬(19)			
		232.81 (129%)	300 (113%)	264 (113%)	263.21 (96%)	252 • 658t (96%)	高知(25), 山梨(18), 熊本(14), 徳島(9)			
	ピーマン 	263.58 (134%)	353 (120%)	316 (120%)	263.58 (104%)	274 • 1,154t (114%)	茨城(54), 岩手(24)			
		296.27 (123%)	364 (114%)	338 (114%)	296.27 (102%)	303 • 380t (96%)	青森(25), 茨城(16), 兵庫(9), 高知(8), 大分(8)			
根菜類	だいこん 	94.60 (109%)	103 (89%)	85 (89%)	67.55 (107%)	72 • 4,904t (104%)	北海道(37), 青森(34)			
		95.37 (108%)	103 (79%)	75 (79%)	76.48 (89%)	68 • 2,915t (118%)	北海道(36), 石川(32), 岩手(10), 青森(10), 新潟(8)			
	にんじん 	123.08 (60%)	74 (66%)	81 (66%)	123.08 (69%)	85 • 4,905t (109%)	北海道(87)			
		123.11 (56%)	69 (65%)	80 (65%)	123.11 (67%)	82 • 2,013t (132%)	北海道(96)			

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/1kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

6 はくさいの平均価格は、上段が8月11日~10月15日(夏はくさい)まで、下段は10月01日~10月31日(秋冬はくさい)までの価格である。

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	9月の価格情報		10月の価格情報		10月上旬の関東及び近畿ブロックの入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	「図の見方」			
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額		(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格			平均価格	見通しの価格水準		
		中旬	下旬				現時点の価格水準	平均価格		
いも類	さといも	254.79 (115%)	293 (107%)	220.97 (119%)	263 ・453t (90%)	埼玉(51), 千葉(27)		生育及び価格の11月上旬までの見通し		
		220.11 (131%)	289 (128%)	217.56 (124%)	269 ・133t (107%)	愛媛(56), 福井(10), 中国(10)		埼玉産は、生育及び品質も良好で、前進気味の出荷となっていることから、引き続きやや多めの出荷の見込み。千葉産は、出荷終盤となっており、8月までの天候不良の影響が残り、生育遅れがみられるものの、9月以降の好天により、現在やや少なめの出荷は、今後は平年並みに回復の見込み。		
	ばれいしょ	111.77 (92%)	103 (84%)	96.99 (94%)	92 ・3,430t (87%)	北海道(99)		北海道産は、作柄は良好で収穫作業も終了し、貯蔵ものの計画的な出荷となっている。一時期の曇天及び低温の影響で、大玉は少ないものの、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		111.77 (81%)	90 (77%)	96.99 (86%)	83 ・1,496t (89%)	北海道(100)		北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれることから、現在平均を下回っている価格は、引き続き平均を下回って推移する見込み。		

注: 1 平均価格は、過去6カ年(平成20~25年)の関東及び近畿ブロックの中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く)で、保証基準額の算定の基となる価格。

2 旬別平均販売価額の赤字及び青の背景は平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

3 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

5 コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴き取りをもとに機構が作成したもの。

1 主要野菜の生産出荷状況(特定野菜)

種類	9月の価格情報		10月の価格情報		10月上旬の東京都及び大阪市場の入荷量 ()内は、本年と過去3カ年平均値との比率	主産地	「図の見方」			
	(参考)過去5カ年平均価格	東京都・大阪市場の旬別価格		(参考)過去5カ年平均価格			平均価格	見通しの価格水準		
		中旬	下旬				現時点の価格水準	平均価格		
洋菜類	ブロッコリー	485.78 (98%)	476 (97%)	408.61 (103%)	421 ・544t (148%)	北海道(23), 埼玉(20), 米国(12), 長野(11)		生育及び価格の11月上旬までの見通し		
		453.84 (113%)	512 (113%)	424.92 (112%)	478 ・162t (130%)	北海道(23), 長野(19), 米国(18), 徳島(10)		北海道産及び埼玉産とも現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。		
根菜類	ごぼう	268.33 (116%)	311 (106%)	252.90 (126%)	318 ・211t (70%)	青森(65), 茨城(12)		青森産は、8月の曇天の影響が残り、肥大に遅れがみられることが、引き続きやや少なめの出荷の見込み。		
		175.79 (118%)	207 (116%)	173.20 (117%)	202 ・156t (96%)	青森(35), 茨城(27), 北海道(21)		青森産及び茨城産とも、現在の出荷状況が続くと見込まれることから、現在平均を上回っている価格は、引き続き平均を上回って推移する見込み。		
果菜類	かぼちゃ	151.49 (99%)	150 (94%)	135.51 (106%)	143 ・1,209t (91%)	北海道(98)		北海道産は、作柄は良好で収穫作業も終了し、貯蔵物の出荷であることから、引き続き平年並みの出荷の見込み。		
		129.22 (99%)	128 (91%)	125.57 (100%)	125 ・421t (108%)	北海道(82)		北海道産の出荷は引き続き平年並みと見込まれることから、現在平均並みの価格は、引き続き平均並みで推移する見込み。		

注: 1 平均価格は、過去5カ年(平成24~28年)の東京都及び大阪市中央卸売市場の価格。

2 旬別価格は、上段は東京都中央卸売市場、下段は大阪市中央卸売市場であり、単位は円/kgである。

3 旬別価格の赤字及び青の背景は、平均価格と比較して150%以上のもの、太字及び赤の背景は平均価格を80%を下回るもの(消費税は除く)であるが、必ずしも事業が発動するとは限らないため、あくまで参考である。

4 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアで平成28年実績である。

2 トピック 一 かぼちゃの需給動向について 一

今日は北海道を主産地とするかぼちゃについて紹介する。 原産地と日本への渡来 かぼちゃは別名「南瓜(なんきん)」とも呼ばれ、原産地はアメリカ大陸である。メキシコの洞窟から紀元前数千年前の地層から種が発見されている。コロンブスがばれいしょやたばこととも、ヨーロッパに持ち帰り世界中に広まったとされている。 日本には16世紀にボルトガル人により九州に伝えられ、17世紀には九州で栽培されたとされている。 かぼちゃの名前はカンボジアから転じたとされ、「南瓜」は中国南部の都市「南京」に由来しているといわれている。 主な種類と特徴 かぼちは大きく分けて、「日本かぼちゃ(東洋種)」「西洋かぼちゃ(西洋種)」「ペポかぼちゃ」の3種類に分けられる。 日本かぼちはねつとりとして水分が多く、甘みが少ないでの煮物料理に使われる。西洋かぼちは粉質でホクホクとした肉質をしており、西洋料理に使われる。ペポかぼちは個性的な形をしたのが多く、味が淡白なため他の食材と合わせて用いるか、ハロウィン等でおなじみの観賞用として利用される。 生産状況 「野菜生産出荷統計」によると、作付面積は平成21年の1万8,200ヘクタールから平成27年には1万6,100ヘクタールと若干減少傾向にある。出荷量は、平成20年の18万7,000トンが最も多く、年によって変動はあるものの最近では約16万トンとなっている(図1)。平成27年の都道府県別出荷量は1位の北海道が9万3,200トンと全国の58%を占めている。次いで鹿児島県の8,340トン(同5%)、茨城県の6,860トン(同4%)と続く(図2)。東京都中央卸売市場における平成28年の入荷量は春と秋が3,000トン台と最も多く入荷されている(図3)。 輸入状況 「日本貿易統計」によると、最近10年間では平成24年に12万5,000トンと最も多いが、おおよそ10万~
